

第44回 与那原大綱曳まつり

夏 町がひとつになった



450年余の歴史と伝統を誇る与那原大綱曳を中心とした町最大の行事「与那原大綱曳まつり」が、8月15日・16日に開催されました。無病息災、子孫繁栄、五穀豊穡、町の発展などを願い、町民が藁から作り上げた長さ90メートル・重さ5トンの綱を東西に分かれて曳き合う与那原大綱曳。今年は町内外からおよそ4,000人が訪れ、会場は熱気と歓声に包まれました。

2分17秒で
東の勝利！

東西の大綱をカナチ棒が貫いた瞬間、会場は一気に熱気に包まれました。力強い掛け声やソング・ドラの音、熱い声援が響く中、2分17秒におよぶ激闘を制したのは東。昨年に続く2連覇を果たしました。2回戦は西が勝利。綱曳の後には、東西の旗頭をぶつけ合い、メンバーが舞い踊りました。参加者や観客は、今も無事に綱を曳けた喜びを分かち合いました。

曳き清らさ、勝ち清らさ、敗き清らさ



14人の支度を
乗せ、いざ会場へ

大綱曳当日は、東西の旗頭や六尺らによる勇壮なガエーの舞、支度を乗せた東西の大綱が担ぎ手によって会場へ運ばれました。支度を乗せた道ジュネーは、与那原大綱曳ならではの特色です。今年の支度は、護佐丸阿麻利の乱をモチーフにした「与那原の乱」と与那原出身の劇作家・伊良波尹吉の代表作「奥山の牡丹」がテーマでした。蛇のようにうねる大綱とさらびやかな衣装を身にまとった支度の姿が観客の目を惹きました。

まつり会場も
祭 大盛況

まつり会場の与那古浜公園では、地元の保育園や各種団体によるパフォーマンス、全国ツアー中の「アロハ（ていーち）」などのステージをはじめ、角力大会や氷彫刻大会も行われました。フレンドシップタウン協定を結ぶ北海道浜中町もブースを出展。屋台や移動式遊園地も並び、子どもから大人まで思い思いにまつりを楽しみました。2日目の夜は花火が夜空を彩り、今年のまつりを華やかに締めくくりました。

あの感動を
再び！
ライブ配信
アーカイブ公開中



ガエー・道ジュネー

大綱曳